

NO. 8 事業名 森林基幹道開設事業（国補）

箇所・地区名 ふじとうぶきた  
富士東部（北）線

平成20年度 公共事業等再評価調書

1. 再評価調書

(区分) 国補 県単

事業名		森林基幹道開設事業 (国補)		箇所・地区名		富士東部 (北) 線		所在地		大月市梁川町 上野原市秋山尾崎		事業主体		山梨県													
当 初	計画期間	S58 ~ H19		変更 後	計画期間	S58 ~ H27		—		⑤再評価時の評価状況〔見直し継続〕 事業の進捗を早める必要があり、森林所有者の合意形成等事業の進め方の見直し、コスト縮減のための状況に応じた規格・構造の見直しを行った上、継続して実施し平成27年度までの完成に努められたい。(H15再評価時)																	
	総事業費	6,140 百万円			総事業費	—		—																			
(1) 事業の概要																											
①事業目的及び効果 本路線は、大月市梁川町と上野原市秋山尾崎を結ぶ生活関連林道であり、桂川流域及び秋山川流域の広大な森林を管理経営する森林基幹道である。利用区域1,313haのうちスギ、ヒノキ等の人工林は約49%であり、これらの森林を整備・管理し、資源を循環利用することはもちろんのこと、国土保全、水源かん養等の森林の多面的機能を持続的に発揮させるための森林整備の基盤となる骨格的な林道である。 また、国道20号線と県道四日市場上野原線を連絡することにより広域的な地域間交通の利便性の向上や災害時の迂回路としての活用など、山村地域の産業振興、活性化、災害対策に寄与する。										(2) 評価項目〔事業を巡る社会経済情勢等の変化〕 ①地域・住民の意向状況 大月市、上野原市秋山(旧秋山村)は隣接しているものの、他地区を大きく迂回しての往来を余儀なくされ、都市部と農山村部を一体とした生活圏形成に大きな障害となっている。一方、広大な森林は、公益的・経済的な恵みを圏域住民にもたらしたが、林業経営のコストの増大、従事者の高齢化等林業を取り巻く情勢の悪化は、当圏の林業経営にも重大な影響を投げかけている。このため、地元の本林道の開設への期待は非常に大きいものがある。 (大月市長、上野原市長より文書にて意見聴取 H20.5.14)																	
②事業概要 森林基幹道 計画延長 14,500m 幅員 5.0m 利用区域面積 1,313ha 森林資源蓄積量 76,675m <sup>3</sup>																②産業・経済情勢 なし。											
③全体計画										③国等の方針変更 なし。																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成19年度以前</th> <th>平成20年度</th> <th>平成21年度以降</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長 (m)</td> <td>11,409</td> <td>430</td> <td>2,661</td> </tr> <tr> <td>事業費(百万円)</td> <td>5,011</td> <td>140</td> <td>989</td> </tr> </tbody> </table>											平成19年度以前	平成20年度	平成21年度以降	延長 (m)	11,409	430	2,661	事業費(百万円)	5,011	140	989	④上位計画・関連事業計画等の変更 ・山梨県林道網整備計画 (平成17年3月) ・山梨東部地域森林計画 (平成11~20年度)					
	平成19年度以前	平成20年度	平成21年度以降																								
延長 (m)	11,409	430	2,661																								
事業費(百万円)	5,011	140	989																								
④特記事項 本路線は、大月市、旧上野原町、旧秋山村、道志村が設立した「林道富士東部線開設促進同盟会」の要望により、昭和58年度に事業の採択を受け全体計画を樹立し、同年度に工事着手した。										⑤自然環境条件等の変化 なし。																	
										⑥その他 なし。																	
(3) 評価項目〔再評価時点の費用対効果分析〕																											
<table> <tbody> <tr> <td>・事業採択時計画における事業全体B/C</td> <td>未算出</td> </tr> <tr> <td>・再評価時計画における事業全体B/C</td> <td>未算出</td> </tr> <tr> <td>・再々評価時計画における事業全体B/C</td> <td>1.10</td> </tr> <tr> <td>・再々々評価時計画における事業全体B/C</td> <td>1.16</td> </tr> <tr> <td>11,409,698 千円 (効果額) ÷ 9,795,498 千円 (費用計)</td> <td>= 1.16</td> </tr> </tbody> </table> 林野公共事業における事前評価マニュアルにより算出。 事業採択基準値 1.00 以上																・事業採択時計画における事業全体B/C	未算出	・再評価時計画における事業全体B/C	未算出	・再々評価時計画における事業全体B/C	1.10	・再々々評価時計画における事業全体B/C	1.16	11,409,698 千円 (効果額) ÷ 9,795,498 千円 (費用計)	= 1.16		
・事業採択時計画における事業全体B/C	未算出																										
・再評価時計画における事業全体B/C	未算出																										
・再々評価時計画における事業全体B/C	1.10																										
・再々々評価時計画における事業全体B/C	1.16																										
11,409,698 千円 (効果額) ÷ 9,795,498 千円 (費用計)	= 1.16																										

2. 再評価調書

(4) 評価項目 [事業の進捗状況及び見込み]																																																									
<p>①計画変更等の概要</p> <p>権利関係が複雑なため用地交渉が難航し進捗が遅延したため、平成14年度に計画期間の延長を行った。</p> <p>②施工済みの事業内容</p> <p>全体計画のとおり</p> <p>③進捗率</p> <p style="text-align: center;">(整備済計 11,839m / 全体 14,500m)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>H15*</td> <td>H16</td> <td>H17</td> <td>H18</td> <td>H19</td> <td>H20</td> <td>H21</td> <td>H22</td> <td>H23</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>70</td> <td>72</td> <td>75</td> <td>77</td> <td>80</td> <td>82</td> <td>85</td> <td>87</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>70</td> <td>72</td> <td>74</td> <td>77</td> <td>79</td> <td>82</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>算出方法</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>92</td> <td>95</td> <td>97</td> <td>100</td> <td>経過年数 / 計画年数 × 100</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>実施済延長 / 計画延長 × 100 (H20以降は見込み)</td> </tr> </table> <p style="font-size: small;">*再々評価実施年度</p> <p>④事業の進捗が順調でない理由</p> <p>なし。</p>											H15*	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	計画	70	72	75	77	80	82	85	87	90	実績	70	72	74	77	79	82	—	—	—		H24	H25	H26	H27	算出方法	計画	92	95	97	100	経過年数 / 計画年数 × 100	実績	—	—	—	—	実施済延長 / 計画延長 × 100 (H20以降は見込み)
	H15*	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																																
計画	70	72	75	77	80	82	85	87	90																																																
実績	70	72	74	77	79	82	—	—	—																																																
	H24	H25	H26	H27	算出方法																																																				
計画	92	95	97	100	経過年数 / 計画年数 × 100																																																				
実績	—	—	—	—	実施済延長 / 計画延長 × 100 (H20以降は見込み)																																																				
<p>⑤今後の事業執行上の問題点</p> <p>なし。</p> <p>⑥今後の事業の進捗の見込み</p> <p>今後も計画どおり事業の進捗が図れる見込みである。</p> <p>⑦事業計画の変更の見込み・可能性</p> <p>なし。</p>																																																									
(5) 評価項目 [コスト縮減の可能性]																																																									
<p>地形に合った平面・縦断線形をとり、切盛土量の収支均衡、及び法面路側構造物等を縮小する。また、急峻な地形においては路肩の縮減を行うなど、総合的なコスト縮減に努める。</p>																																																									
(6) 評価項目 [代替案立案の可能性]																																																									
<p>事業の目的を達成するためには当路線の開設以外に方策はない。</p>																																																									
(7) 所管部の今後の方針 (継続)・見直し継続・その他( )																																																									
<p>計画どおりの進捗となっていることから、今後もコスト縮減に努めながら事業を継続する。</p>																																																									

省略

3. 添付資料シート(1)

□現況等写真



計画地遠景



既設林道沿線における森林整備の状況

3. 添付資料シート(2)

□現況等写真



林道先線の要間伐林の状況



開設促進PR看板